

<< 目 次 >>

- ・平成21年度 大学・大学院入学式 ……3
- ・平成21年度 入学式学長訓辞
学 長 川添堯彬 ……3
- ・平成21年度 入学式理事長式辞
理事長 川添堯彬 ……5
- ・平成21年 春の褒章・叙勲受章者 ……8
- ・寄 贈 ……8
- ・第102回歯科医師国家試験の結果 ……8
- ・平成20年度 事業報告 ……9
- ・平成20年度 監事監査報告 ……15
- ・平成20年度 決算報告 ……16
- ・学位（博士）授与報告 ……20
- ・6月より歯周外科の先進医療実施
副病院長・歯周治療科科长 上田雅俊 ……21

- ・第17回公開講座テーマ決定 ……21
- ・第16回公開講座好評のうちに終了 ……22
- ・新型インフルエンザへの本学の対応 ……22
- ・第10回学園都市ひらかた推進協議会 ……22
- ・「道徳心教育検証フォーラム」開催 ……23
- ・相撲道場<木鶏館>完成 ……23
- ・歯科衛生士・筒井 睦さん歯学博士に ……24
- ・第53回大歯・九歯ラグビー定期戦 ……24
- ・平成21年度 解剖体慰霊祭 ……26
- ・平成21年度 父兄会・共済会総会 ……26
- ・第29回日本歯科薬物療法学会開催 ……26
- ・人権講演会「薬物乱用の現状と対策」 ……26
- ・人 事 ……28
- ・あとがき ……35



平成21年度大学・大学院入学式（平成21年4月7日）

平成21年度 大学・大学院入学式

平成21年4月7日(火)午前10時より、平成21年度大阪歯科大学ならびに大学院入学式が挙行された。

式典は開会の辞で始まり、国歌斉唱の後、大学128名、大学院28名の入学許可が宣され、川添学長が訓辞ならびに理事長としての式辞を述べ、無事滞りなく終了した。入学式終了後、引き続いて父兄会ならびに共済会が開催された。



平成21年度 入学式学長訓辞

学長 川添 堯彬



4月に入ってから春寒が続く中にも、着実に桜開花の便りが全国各地から届けられているこの佳き日に、平成21年度の大学、ならびに大学院入学式が挙行されるに際して、学長として、一言訓辞を申し述べさせていただきます。

本日、晴れて念願の本学に入学されます128名の学部学生の皆さん、誠にありがとうございます。今年の入学生は、ひときわ点呼に対して、「はい」という返事が男女共にしっかりと聞こえました。2名ほどの例外を除くと、ほぼ完璧に点呼に「はい」と言ってくれました。大学院の28名の方は、完璧に「はい」という返事が聞こえました。誠に清く美しく、うれしく思います。

また、年度始めの何かとご多端な折にもかかわらず、曲げてご臨席いただきましたご来賓の皆様に対しまして、誠に高い所からでございますが、厚く御礼申し上げます。また、本日、ご臨席いただいております多くのご父兄・保護者の皆様におかれましては、今日のこの日を鶴首の思いで待ち望んでこられたことと拝察いたします。しかしながら同時に、ご子弟が入学したものの、これから6年間に亘る厳格な出席義務を含む学業成績のこと、学生としての生活習慣のこと、友人関係のこと、また肉体的ならびに精神的な健康管理のこと、あるいは経済的負担への不安などが交錯して、複雑なご心境でもあろうかとお察し申し上げます。

まず、この度本学に入学された128名の皆さんへ申し上げたいと思います。

諸君は、かつての団塊の世代のように多人数ではなく、少子社会の中で生まれ育ちました。そのような諸君に一番先に申し上げたいことは、本年、よくぞ、この歯科医師の道を選び、本学を受験してくれたということでもあります。一部マスコミでは、歯科界の将来は収入が少なく、生活も苦しくなるだろうと予測しているところもありました。そんな風評に影響されることなく、敢えて歯科医学探究への道を選ばれた諸君に、敬意と賛意のエールを贈りたいと思います。歯科界が逆風と言われる時にあっても、逆に、自分を活かし、自己実現できる絶好のチャンスであると捉えるか、あるいは気乗りしない失望の選択と捉えるかで、将来に計り知れない大きな差が生まれる、その分岐点になるのです。一つの流行に対して、それに流されるのではなく、冷静に10年先、20年先をめざして、生きがいを持ち、チャレンジ精神を持って進む若者に、この上なく魅力と頼もしさを感じます。努力する人にとって、これからの歯科医学の道は、必ずや明るいものになることは、近隣諸外国はじめ、広く世界の例を見ても明らかであります。

昨年、私は学長として、受験生の入試時の学力に強い関心を持ち、全員が国家試験に合格できるレベルの学力の学生を揃えて、入学してもらいました。ところが、1年後に進級成績を調べましたところ、その128名の中の4名もの学生が留年ということになりました。このこともショックでありましたが、この4名の入試学力を1年前に遡って調べましたところ、この学生たちは決して下位成績者ではなかったのであります。入

試学力のよい者であっても、入学した途端に安心して努力を怠ると、僅か1年で脱落してしまうことがあるということでございます。この経験から、入学後に学生諸君の気を引き締める必要性を痛感いたしました。そこで今年の入試にあたっては、一段と学力の高い学生を採り、加えて入試直後からの油断や気の緩みがないように、厳しく指導強化する方針でございます。

一方、今年の新入生を見渡しまして、私は学長として、大きく心を揺り動かされたことがありました。今年の入試でのエピソードでございますけれども、二人の男子兄弟が同時に本学を受験されました。ともに大阪の同じ有名進学校出身でございます。弟さんの方は現役の推薦入試で、高校からの通知は極めて優秀な生徒でございましたので、合格いたしました。兄の方は一般前期の入試で、これもまた大変優秀な成績で合格が決まっておりました。この兄弟は、高校も大学も同じ学校に進んだ、大変仲良しの兄弟だと思えます。ですから、父親も二人の学費を同学年で、6年間支弁するという極めて重い負担をも、喜んで覚悟していたようでございます。ところが、その大黒柱の父親が、今日のこの二人の入学式を待たずして、ご病気のためにご逝去になったわけでございます。本学の共済制度の規定では、入学式後、すなわち今日ですね、入学式後に支弁者が死亡した場合にしか、適用されないことになっています。この前途洋々の二人のどちらか一人だけを在学させて、残り一人を退学させるということは、ご家族にとっては大変忍びない辛いことでしょうし、ましてやお母様にとっては、とてもできない選択であると思えます。

そこで本学では、二人の学費をできるだけ軽減して、学業を続けられる方策を検討しています。本学は、このような優秀な学生を一人でも多く、受け入れたいと願っています。

さて、大学院に入学されました28名の皆さん、本日は誠におめでとうでございます。皆さん方は、義務化されました1年間の臨床研修を修了され、その上で、難解な試験にも見事に合格された、精鋭揃いであると確信いたしております。また、ご父兄・ご家族の皆様におかれましては、ご子弟のさらに高度な勉学に燃える晴れ姿を目の前にされ、その感慨もひとしおのこととお察し申し上げます。反面、これからの4年間、経済的にも大きな試練が続くことになりましようし、その

胸中は複雑な思いが去来していることとお察しいたします。

大学院生の皆さんは、既に歯科医師の免許を取得されておられるわけですが、なおその上に、博士号の取得をめざしているわけでございます。しかし、その道のは決して平坦ではなく、厳しいことも覚悟しなければなりません。それだけに、その志がまっとうできた時の喜びは、到底筆舌には尽くせないものになることでしょう。そして、2度や3度の失敗にも挫けることなく努力を重ねていけば、必ずや皆さん方が期待しておられる、その期待の2倍にも3倍にも相当する満足感と達成感が得られるに違いありません。今後のご健闘、ご活躍を念願する次第でございます。

最後に、去る3月13日の、第57期の卒業式の時に、私はお約束をしたことがございます。それは、卒業式の時に、完全におめでとうと言えないという事情を申し上げました。この卒業生の全員が、国家試験に合格することを念願していますが、万一不合格になった卒業生は、今日のこの4月7日の入学式に、後ろの方の席でもいいから来て欲しいと申し上げました。

本日、何名来てくれているか問いません。そして、貴方たちの申し上げたいことは、貴方たちが好むと好まざるとにかかわらず、本学の卒業生であるということでもあります。これは終生ついてまわると思えます。それならば、恥ずかしいと思わないで1年後にはこの屈辱を晴らす意味で、必ず1年後には合格して欲しいと思うわけであります。自分は恥ずかしいから家で自習するということでは、生活習慣などが不規則になり、新しい情報にも疎くなってしまいます。そこで、私のお願いは、できるだけ大学を離れずに、できれば特別授業のプログラムを受けて、そして再度、国家試験を受験して欲しいのです。石に嚙り付いてでも合格して欲しいのです。実際は石ではなく、大学に嚙り付いてでも受験するのが、最も確実であることを申し上げたいわけでもあります。どうか、お願いしたいと思えます。

このように、三者とも入学生であると、私は確信しております。この三者に対して、学長からこれからの期待と活躍に対しまして、エールを贈りたいと思えます。皆さん、三者の皆さん、私と一緒に競争しようではありませんか。

平成21年度 入学式理事長式辞
理事長 川添 堯彬



まさに、桜開花の便りが全国から送られてくるこの佳き日に、ご来賓の皆様、関係各位の方々をはじめ多くのご父兄・保護者皆様にご臨席を賜わり、128名の学部学生、ならびに28名の大学院生による、平成21

年度の入学式が挙行できましたことを、誠に慶賀にたえませぬ。改めまして、ご臨席の皆様方にお祝いと御礼を申し上げます。

それではまず、本日を以って本学の学生として在学される学部学生の皆さんに、理事長としての式辞を申し述べさせていただきます。本学は1911年、明治44年に創立され、以来、営々と伝統を築き上げてまいりまして、これから2年半後の2011年には、100周年を迎える誇りある大学であります。あなた方も、今日から、我々と共に諸先輩方が築かれた大学愛、校風、そして同窓としての絆を汚すことなく、受け継いでいくわけであります。本学の建学の精神は、以下のように謳っています。「歯科医療における専門的知識、技能の重要性を自覚させ、旺盛なる研究意欲を醸成し、自ら選んだ道に強い使命感を持つと共に、社会に対する奉仕の人生観を体得させ、さらに健康にして活動力のある情操豊かな人間形成を行う」。この精神をよく理解し、将来は国内に留まらず、国際的にも活躍するサイエンティストとして、歯科医療人になっていただきたいと願いたします。

先程の学長の訓辞にもありましたが、この度本学へ入学された皆さんは、よくぞ歯科医師の道を選びました。その慧眼に拍手を送りたいと思います。世間や一部マスコミでは、歯科医師過剰だとか、豊かな暮らしは望めないのではないかとの意見もあるようですが、それは皮相的な間違った捉え方でありませぬ。これからの日本の超高齢化社会、全世代を通じての高いクオリティオブライフ、QOL希求の傾向、全身疾患と歯科疾患との密接な関係などにおいて、歯科医師の役割は高まるばかりであります。ただし、30年前後前の高度経済成長時代のニーズは、勤勉でなく努力しない歯科医師でも、一様に光が当たった一時期がありました。

そのような時期は、バブルの幻にしか過ぎませぬ。現今の時代、これからの時代こそ、常態の姿とさせていただきたいのです。すなわち、努力する人へのみ光が当たり、医療技術はますます高度化する、専門化していく時代であります。そのような社会では、皆さん方は、まさに引っぱりだこになっていることであらうでしょう。

ただし、皆さんがこの道へ進まれるに当たり、社会から落伍しないために、一つ注意しなければならないことがあります。それは歯科医師である前に医療人であるということ、人間性を養う必要があります。そして患者さん始め、国民や社会からの信頼性を獲得しなければなりません。これを怠ると、次第に社会からはじき出されてしまうこととなります。職業を持つ身にとって、最も怖いことは信頼性の失墜であります。どうかこのことを決して忘れないで、これからの6年間の学生生活を楽しんでいただきたいと強調し、理事長からの餞といたします。

さて次に、大学院に入学されました28名の皆さん、本日は誠にめでたうございます。なお今回、大学院に入学されました方々は、歯学士の免許を既に取得され、さらに必修化された1年間の卒後臨床研修を修了された上に、さらに、より崇高な歯科医学の真髄を求めて、更なる研究の道を選ばれた方々であります。そのチャレンジ精神こそには、満腔からの敬意を表する次第でございます。

私も昔、43年前ですが、大学を卒業して進路を考える時、随分迷いましたが、大学院へ進んでよかったです、その後強く思いました。先輩からも言われました。「大学院へ進むのは、最短距離でイージーに学位を取るためでは決してない。その4年間の課程でどれだけ自らが悩み苦しんだか、どれだけ汗して努力したかにある。従って、同じ博士の学位を持って、各人の苦しみよう、努力の仕方が違うように、学位の価値も、人それぞれに違って来るのだ」と。この言葉に、後になって、目から鱗が落ちた感じがして、今に至っております。

4年間ではノーベル賞は貰えないかもしれませんが。しかし、ノーベル賞をも狙える科学的研究手段、或いは方法は、4年間でも習えると思います。どうか熱意ある28人の新大学院生の皆さん、これから一念発起のチャレンジ精神と不撓の努力によって、果敢に進んでいただきたいと願ひして、理事長の式辞といたします。



☆☆☆ 平成21年度入学式 ~ 喜びの風景 ☆☆☆



春



平成21年春の褒章・叙勲受章者

平成21年春の褒章・叙勲において、大阪歯科大学関係者として以下の先生方が受章されました。

褒章

大学 17回 和田 明人 徳島県 藍綬褒章

叙勲

- 専門 30回 新田 孟 大阪府 旭日双光章
専門 31回 小坂 修 兵庫県 旭日双光章
専門 32回 吉田 定宏 岐阜県 瑞宝中綬章
大学 2回 岡西 静雄 高知県 旭日双光章
大学 2回 岡野 博郎 兵庫県 瑞宝中綬章
大学 2回 並河 勇 岐阜県 瑞宝中綬章
大学 2回 柳生 嘉博 大阪府 瑞宝中綬章
大学 3回 片山伊九右衛門 関東支部 瑞宝中綬章
大学 4回 松本 島春 広島県 旭日双光章
大学 6回 川田 雄祥 徳島県 旭日小綬章
大学 7回 河合 洋一 岐阜県 瑞宝双光章
大学 8回 井関 功 和歌山県 旭日双光章

寄贈

下記の寄贈を受けましたので報告します。寄贈いただいた各位には心より感謝いたします。

大阪歯科大学第57回卒業生

卒業を記念して 平成21年3月13日寄贈
給茶機2台 819,000円也

川添堯彬理事長・学長・名誉教授

- 1) 定年退職を記念して 平成21年4月7日寄贈
100周年記念事業基金として 1,000,000円
2) 100周年記念事業基金として 2,000,000円
計 3,000,000円

新池 孜名誉教授

定年退職を記念して 平成21年4月7日寄贈
100周年記念事業基金として 1,000,000円

第102回歯科医師国家試験の結果

3月27日、第102回歯科医師国家試験結果の発表があり、本学の結果は以下のとおりであった。

第102回歯科医師国家試験結果

Table with 5 columns: 受験者数, 合格者数, 不合格者数, 合格率. Rows include 新卒, 既卒, 合計, 全国.

本学は、新卒者は120名が受験、86名が合格し合格率は71.7%であり、既卒者を含めると61.6%であった。全国的には、受験者数3,531人に対し合格者数は2,383人、合格率は67.5%で昨年よりさらに厳しい門となった。合格基準の厳格化により、既卒者の受験者が増加していることも合格率を下げる一因となっている。

平成20年度 事業報告

平成23(2011)年の創立100周年を見据え、「建学の精神」と「教育方針」を基調として、歯科総合学園たる本学のさらなる発展を目指し、以下の計画を実行した。

【3つの基本方針】

< 財政基盤の改善、強化 > , < 教学資質の改善、向上 > , < 中核人材の育成、支援 > の3つの基本方針を根底にして、以下の諸事業を展開した。

- I. 大学運営
II-a. 教学-教務部・学生部
II-b. 教学-研究(大学・大学院)
III. 附属病院
IV. 教員組織改正に伴う対応
V. 情報化, IT化, 市民との交流への対応
VI. 両専門学校の将来像
VII. その他の重点計画

I. 大学運営(管理・運営)

1. 支出経費の削減

平成16年度から平成20年度の5年間、大学の方針

として具体的な数字を提示して支出経費の削減を関係部署に指示し、予算委員会および監事監査等の尽力もあり、多くの部署において経費削減への努力が実行され、5年間で総額約1億9,800万円が削減された。この間、大学の事情による報酬委託費の増加（人材派遣・管理コンサルタント等）および平成19年度からの新病院システムの費用を控除すると、事務各部署単位において、総額で約5億6千万円が削減されたことになる。これを大学単位で見ると、学部のカリキュラムにおける関係予算等の中で、平成16年以降に新たに予算化され増加した項目もあるので、平成15年度の決算額と比較して先の控除額を差し引くと総額で約4億8千万円削減されたことになる。大学の趣旨が関係部署に理解され、経費削減において一定の成果を上げることができたといえる。

平成20年度は、前年比3%の経費削減を要請し、決算額において約1億3千万円が削減された。今後とも、大学の財務安定化・適正化のため、関係部署の継続的な経費節減を行う。

2. 給与規程等の改正・定年年齢の改定

給与規程等の改訂が昨年達成され、ここ2年間で総人件費が抑制されたことに伴い、大学の財務状況も改善されてきている。また、定年年齢の改定も実施する段階になってきている。

3. 大学入試制度の改革と学納金の引き下げ

18歳人口の減少により、大学等の高等教育機関は、受験生確保が困難となってきている。このような状況に鑑み、入学志願者の増加を目指す施策の一環として、以下の改革を行った。

①一般入学試験日程（前期・後期）の実施

一般入試日程の区分を前期・後期に改め、受験機会の複数化と入学志願者確保を図った。一般入試において、学力試験時間の短縮を行い、従来の2日間から1日で学力・面接両試験が終了するように改めた。

また、試験方法の大きな変更はないが、面接試験について、これまで個人面接から数名によるグループ討論に形式を変更した。

○推薦入試 試験日 平成20年11月29日(土)

募集人員 18名（前年度募集 28名）

○一般入試前期 試験日 平成21年2月3日(火)

募集人員 100名（前年度募集 100名）

○一般入試後期 試験日 平成21年3月14日(土)

募集人員 10名（新規募集）

②学納金の引き下げ

「授業料を大幅に減額し、学力、教育力を向上させ、温かい人間性を涵養する」との基本方針のもと減額を行った。

○入学金（入学時のみ） 600,000円（変更なし）

○教育充実費（入学時のみ） 3,900,000円
（変更前 5,900,000円）

○授業料（年額） 3,800,000円
（変更前 4,000,000円）

○施設維持費（年額） 700,000円
（変更前 1,500,000円）

○入学時学納金納入額 6,750,000円
（変更前 9,250,000円）

（*入学金、教育充実費、授業料前期分、施設維持費前期分の合計額）

○6年間学納金納入総額 31,500,000円
（変更前 39,500,000円）

以上の学納金の改定に伴い、平成21年4月1日付けで「大阪歯科大学学則」の変更を行った。

上記の関連事項として、平成21年度入学生から特待生制度を改め、当該年度の授業料100万円免除とした他、教職員子弟の授業料減免措置を廃止した。

4. 「五つの力(りょく)の目標」の制定

平成20年度の各事業計画にも反映することと合わせて、本学創立100周年を迎えるにあたり、諸改革を行っていく機運を高める契機として、制定された。

優れた建学の精神に加え、本学の目指す歯科医師像・人間像として要となる目標である。

<五つの力(りょく)の目標>

- ・ 募集ブランド力の回復
- ・ 学力の向上
- ・ 教育力の向上
- ・ 人間性涵養力への注力
- ・ 教員人材育成力への注力

5. 教職員の「兼業」の適正化

本学に勤務する教職員は、教育、学術研究、医療業務、事務及び用務並びに、その他の関連諸職務を遂行

するに当たっては、職務の向上、改善に努めなければならない。兼業の適正化により職務専念義務の徹底を図るとともに、学生教育の低下および病院収入の低下を防ぐ。具体的な方策については、継続的に審議していく。

II-a. 教学 - 教務部・学生部

1. 受験生の増加策と入学生の学力向上策

今年度のオープンキャンパスを楠葉学舎において、以下の日程で開催した。

- ・第1回 平成20年7月29日(火)午後1時～午後4時
51名参加
- ・第2回 平成20年8月25日(月)午後1時～午後4時
73名参加
- ・第3回 平成20年11月2日(日)午前11時～午後12時30分
63名参加

2. 在校生の学力向上と卒業資格

在校生の学力向上(CBT 実力の向上)については、本学独自のカリキュラムの特徴を生かした継続的な取り組みを行う。

卒業資格(学士Ⅰ、Ⅱ)試験の合格基準の引き上げについては、これを実施して一層の「学士力」を上げるため、教育の強化を図った。

3. 歯科医師国家試験合格率について

本学における第102回歯科医師国家試験(平成21年3月27日発表)の合格者は、新卒者で86名(受験者数120名、合格率71.7%)であった。このことを受けて次年度以降、国家試験成績のなお一層の向上を図るべく学内での取り組みを進めていく。

4. 在学生の態度規範向上等

学生に本学の建学の精神、教育方針、アドミッションポリシーを一層浸透させ、歯科医師として社会に貢献し奉仕する使命感と気概、専門的知識、技能、態度を修得するための着実な努力、国際的な視野に立って歯科医学の発展と歯科医療を担う意欲のある学生の育成を目標とした教育を展開した。

毎年、新入生に対して「新入生研修」を行い、本学に対する愛校精神を養っている。(平成20年は、4月7日(月)、8日(火)の両日に実施)

特に初年次教育では、「学長と語ろう」というゼミナール形式の授業を行った他、本学の特色ある教育として態度教育の「社会福祉施設体験学習」を行うことで、上記の目標の浸透を図った。

楠葉学舎における喫煙場所の標識板を新しく設置し、学生への指導方を徹底した。また、学生の生活態度を改める意味で、総代が授業開始時に立礼、挨拶の号令をかけるよう指導した。さらに学内標語として、「歯科大生として守るべき事柄」を掲示して、学生諸君の行動の指針とした。

<歯科大生として守るべき事柄>

1. キャンパス内では教職員に対して、また学生間での挨拶を心がけよう。
2. 歯科大生として節度ある服装をしよう。
3. キャンパスは公共の場であるとの自覚を持とう。
4. 将来の医療人として自覚を持ち、他者への思いやりを大切にしよう。
5. 地域住民の一員としての自覚と社会性を持とう。
迷惑行為(違法駐車、くわえタバコ等)の禁止
6. 授業開始・終了時には立礼をしよう。
7. キャンパス内外の美化に努めよう。

大麻等の薬物乱用について、学長名による注意を喚起したうえで、第1学年から第5学年を対象に薬物乱用防止に関する講演会を次年度4月初旬に開催する計画を検討した。講師は大阪府健康福祉部薬務課から招くことになった。

5. 教員評価と学生からの授業評価

上記評価が、平成20年度から行われることとなった。本学の「教員評価要項」は、教育活動、研究活動、臨床活動、学内活動、社会的活動、目標・態度・意欲などの評価領域にわたり、評価の方法など細かく定められている。また、学生からの授業評価は、教員評価委員会における審議を踏まえ、平成21年度に導入することにした。

6. 学生・研究者の国際交流

本学の第3学年3名が、平成20年8月6日から18日にかけて、本学との交流提携校であるオーストラリア・シドニー大学歯学部を訪問し研修を行った。

南方医科大学から同大学学長を含む5名の研究者が、平成20年4月24日から4月25日にかけて本学に来校訪問した。

上海交通大学口腔医学院から教員1名が、平成20年9月1日から11月10日にかけて、本学と共同研究を行った。

7. その他の新規事業（大学学部）

・再入学試験制度について

第6学年で退学した者を対象にした再入学試験制度の設置に向けて検討を行い、その申し合わせを定めて平成21年3月10日（火）に試験を実施した。

・教育GPの申請について

文部科学省の「質の高い大学教育推進プログラム(教育GP)」へ次年度申請することに決定した。

II-b. 教学 - 研究（大学・大学院）

1. 教育・研究を支える教職員人材の育成

ファカルティ・ディベロップメント(FD)については、以下のとおり開催した。平成20年度は、セミナー形式と宿泊形式で合計4回行われ、教員の資質向上に役立った。

・第1回 平成20年7月15日(火)17時10分～ (セミナー形式)

テーマ 「よりよい学士試験問題の作成法」

参加者 98名

場 所 大阪歯科大学天満橋学舎

・第2回 平成20年7月18日(金)～7月19日(土) (宿泊形式)

テーマ 「カリキュラムプランニングのためのワークショップ」

参加者 38名

場 所 コスモスクエア国際交流センター

・第3回 平成20年12月11日(木)17時10分～ (セミナー形式)

テーマ 授業評価の解釈と活用

参加者 114名

場 所 大阪歯科大学天満橋学舎

・第4回 平成21年1月16日(金)～17日(土) (宿泊形式)

テーマ 歯学系CBT試験問題ブラッシュアップ

参加者 55名

場 所 コスモスクエア国際交流センター

2. 文部科学省研究費補助金について

この補助金は、あらゆる独創的・先駆的な研究を進展させることを目的とする「競争的資金」である。

平成20年度における本学の採択件数は、以下のとおりであった。

基盤研究（C）	20件
萌芽研究	1件
若手研究（C）	8件
若手研究（スタートアップ）	5件
採択件数合計	34件
補助金交付額	42,810,000円
間接経費	12,423,000円
合 計	55,233,000円

なお、本学の教員の新規申請件数は、昨年度は128件で、平成20年度は157件に増加した。

3. その他の競争的資金

次の4件で5,600,000円の競争的資金を獲得した。

・独立行政法人科学技術振興機構(JST)関係

①平成20年度産学共同シーズイノベーション化事業
(顕在化ステージ) 1件 1,800,000円

②平成20年度シーズ発掘試験(発掘型)委託研究費
1件 2,000,000円

・厚生労働省関係

①平成20年度厚生労働省生育医療研究委託費
1件 1,000,000円

②平成20年度厚生労働科学研究費補助金
(研究分担) 1件 800,000円

4. ハイテク・リサーチ・センター整備事業

「歯周病に対する戦略的研究」を事業名とした平成19年度からの継続事業である。現在、研究の成果へ向けての蓄積が続けられており、次年度には中間報告を行うことになっている。

5. 大学・大学院関係新規事業

平成19年度の大学基準協会の大学評価・認証評価において、①大学院生への大学独自の経済支援体制の必要性が指摘された他、②研究支援職員の制度の創設が示唆された。これを受けて、②について、関係規程を整備した。

・ティーチングアシスタント

学部教育の充実を図り、大学院博士課程に在籍する学生に将来の教育、研究者のトレーニングの機会を提供するとともに、奨学に資することを目的に導入することとなった。

・ポストドクトラルフェロー

研究嘱託として、大学院専攻科において、専門的研究に従事することで、優れた研究者の育成並びに後継者の養成に寄与する目的で導入することとなった。

・リサーチアシスタント

これは、平成16年度に導入されたもので、本学の行うプロジェクト研究の補助的業務に従事する大学院博士課程に在籍する学生の奨学に資する制度であり、平成20年度は、「科学研究費補助金事業」、「ハイテク・リサーチ・センター整備事業」、「産学共同シーズイノベーション化事業ステージ」の研究に対して、5名の大学院生が採用された。

・大阪歯科大学教育研究論文目録

新たな論文検索システムを導入、教員評価の連動と教育研究論文目録（冊子体）の観光に活用する。

・知的財産取得規程の制定とその運用

規程の制定に伴い、特許事業に係る経費の予算化を行った。

・中央歯学研究所の紀要作成

紀要の作成に着手し、次年度以降の刊行を行うことになった。

Ⅲ. 附属病院

1. 「新病院情報システム」の導入と運用

平成20年1月から導入された新病院情報システムを円滑に運用することにより、診療効率化を図るとともに、システムに習熟しそのメリットをいかした収支改善及び経費削減に取り組んでいる。現在のところ、これまで発生したトラブルの修正、点検にあたっている。

2. 病院財務の改革への取組み

「附属病院財務改善検討委員会」答申による病院財務の改革を軌道に乗せるべく検討を行った。

平成20年5月に、「本学附属病院運営の方向性」として、

(1) 患者さんの目線とニーズにあった診療体制の構築

(2) 卒前、卒後の教育病院としての適正化

(3) 病院財政の健全化に向けた取組み

が提案され、重点的課題として取り組むこととなった。

本学附属病院の特色として、疾患に応じて7つの「専門外来」を設置した。すなわち、「息さわやか（口臭外来）」、「白い歯外来」、「ドライマウス・ドライアイ外来」、「顎変形症外来」、「顎関節外来」、「口腔腫瘍外来」であり、患者様の多様なニーズに応えている。

平成20年9月に「附属病院増収計画のための施策」として、物品調達及び物流の簡素化、建物保全管理体制の構築と設備運転管理業務の見直し、新病院医事会計システムによる保険請求の徹底化、中央技工室の業務合理化、病院医員制度の改善などの課題が提案され、具体化に向けた検討が行われている。

3. 歯科医師臨床研修・社会的貢献としての病診連携

平成20年度の本学の歯科医師臨床研修（平成18年度から義務化）は、プログラムS（単独型）38名、プログラムC（先発型）35名、同（後発型）35名のマッチングで開始された。本学の歯科医師臨床研修修了者数は、108名（受け入れ108名）で、平成21年3月23日（月）修了証書授与式を行った。

病診連携の面では、「病診連携講習会」として、前年度に引き続き本学附属病院と歯科医院との連携の目的に、平成21年2月21日（土）に「高齢者の総義歯治療」と題して開催した。

4. 医療安全及び感染防止対策

院内感染防止マニュアル等の改訂を行い、大阪市保健所に「医療安全管理マニュアル」、「医療機器保守点検計画」、「院内感染防止マニュアル」を提出した。

医療安全への対応としては、「医療安全講習会」に、年2回の出席が義務付けられている。平成20年度は、「医療安全のための研修」（8回開講）、「院内感染対策のための研修」（8回開講）、「医薬品安全のための研修」（3回開講）、「医療機器安全使用のための研修」（1回開講）がそれぞれほぼ全員の医療従事者の参加で行われた。

5. その他の改善

新たな医療機器の導入としては、歯科用X線CT

(3DX)による画像診断の開始があり、インプラント治療、歯内療法、歯周病診査などに利用される上記の医療機器が、中央画像検査室に設置された。

病院医員については、診療報酬に応じた報奨金制度を設けて、各自のモチベーションを高める方策を検討し、平成21年度から実施することになった。

IV. 教員組織の改正

学校教育法の改正により、平成19年4月から大学の教員組織は、教授、准教授、講師、助教の職制となったが、本学では、教育・研究の専念義務の自覚を高め、各自の一層の資質向上を目指すことを目的として、平成20年度中に教員組織に関する独自の諸規程を整備し、平成21年4月1日から施行することとした。

改正のあらまは、以下のとおりである。

(1) 教授職に関する改正

1) 教授職を2つの職制とする。(職制規程改正)

①主任教授

講座・教室を管理統括し、学生教育指導・研究指導を行う。

②専任教授

学生教育指導・研究指導を行う。講座・教室所属外に配属される場合は、当該部門の管理監督

2) 教授の配置(教員の定員等に関する規程制定)

①主任教授 講座又は教室

②専任教授 講座又は教室以外の部門、講座を兼任することもできる。

3) 教授の待遇(給与規程別表改正)

①主任教授 従前の教授職と同様

②専任教授 役職手当は5万円、その他は主任教授と同様とする。

4) 教授職の選考(教授候補者選考委員会規程改正、教員選考規程制定)

①主任教授 学内外の推薦公募により、教授選考委員会で2名ないし3名を選考し、主任教授会で1名に決定する。

②専任教授 学内外の推薦公募により、教授選考委員会で1名を選考、主任教授会で信任投票により決定する。

5) 教授会の改正(教授会規程の改正)

①主任教授会を置く

②教授会の構成員 学長、主任教授、専任教授

③主任教授会の構成員 学長、主任教授

④教授会の審議事項 教育研究の基本に関する事項 学長の諮問に関する事項

⑤主任教授会の審議事項 従前の教授会審議事項

6) 学長候補者選考(学長候補者選考規程の改正)

①学長候補者の最終選考 主任教授会構成員を選挙人とする。

(2) 准教授、講師、助教の改正(教員の定員等に関する規程制定)

1) 准教授、講師、助教の配置

講座又は教室以外の部門についても、定員の範囲内で配置することができる。

2) 准教授、講師、助教の異動

講師又は教室に所属していた准教授、講師、助教が講座又は教室以外に異動になった場合は、従前の講座又は教室の定員を異動の人数分減じる。

(3) 病院教員の改正(病院教員規程改正)

1) 病院教員の昇任及び新規任用は、行わない。

現行の病院教員は、教員任用の基準に基づき、順次職制を大学教員に移行していく。

V. 情報化、IT化、市民との交流への対応

1. ホームページによる情報発信の充実

新着情報を掲載することにより、受験生や保護者の見たい情報を的確に紹介する態勢を整えた。また、英文ホームページのリニューアルを行い、海外からのアクセスにも対応できるようになった。

2. IT・視聴覚機器による学生サービスの充実

教務関係では、前年度から進められておるモバイルサービスにより、授業等の連絡事項の情報を発信して、学生への伝達の迅速化を図った。

教育学術ネットワーク支援事業(ODU net)は、今年度も私立大学等経常費補助金特別補助を得て、講義映像の配信、CBT練習問題システムなどITを活用し、「歯学教育の動機付け」、「自学自習能力の育成」を実践し、問題解決型教育への応用を図った。また、「講義自動収録システム」の活用、「シラバスの改善」などの教育・学習方法の改善を図った。なお、講義室内のAV機器改修工事を実施し、学生教育のための重要

なツールの充実を図った。

3. 図書館サービスの充実

図書館システムのリプレイスにより、以下のサービスを開始した。

- ①携帯電話による開館日案内・蔵書検索・利用状況照会
- ②WebによるILLの申込・購入希望図書申込（登録者）
- ③雑誌蔵書検索結果から電子ジャーナル・ホームページへのリンク
- ④蔵書検索機能の充実（図書表紙画面表示・他サイトの同時検索）

なお、①については、私立大学等経常費補助金特別補助を得て、図書館情報のスムーズな利用が可能となり、学生の学習機会の拡大が図られた。また、図書館ホームページもリニューアルされ、より利用しやすくなるとともに、英語版蔵書検索も掲載された。

さらに開館時間の延長（本館の平日午後9時までの夜間開館の通年実施及び後学期における日曜開館）を行った。このことを通じて、学生の学習意欲向上に大いに貢献した。

4. 市民との交流 - 公開講座

16年目を迎えた公開講座では、プレ創立100周年記念事業として位置づけ、<「8020運動」支援病院としての取組み 今、専門外来では！>をメインテーマに、「顎変形症外来」、「白い歯外来」、「息さわやか（口臭）外来」、「ドライマウス・ドライアイ外来」の4つのサブテーマで開催した。天満橋・枚方両講座で延べ967名の受講者があり好評を博した。

また、枚方市と本学を含む6大学が構成する「学園都市ひらかた推進協議会」の事業の一つである「平成20年度コミュニティカレッジ」（平成20年10月開催）に本学教員が講義を担当した。

VI. 両専門学校の将来像

平成20年4月に専門学校財政改善等検討委員会により「専門学校の短期大学化の検討について」との中間報告が理事会へ提出された。

これを受けて歯科技工士専門学校・歯科衛生士専門学校の将来像を検討するための調査年度として、他校の事例収集を基に、次年度に向けて改革の方向を検討した。次年度以降も引き続き慎重に検討を行う。

VII. その他の重点計画

1. 創立100周年記念事業について

「創立100周年記念事業企画委員会」（委員長：理事長・学長）のもとに、「創立100周年記念事業企画小委員会（教授会部門）」、「創立100周年記念事業企画小委員会（理事会部門）」が設置され、両委員会において慎重に審議の結果、記念式典の日時・場所及び創立100周年記念のテーマを理事会へ上程、以下のとおり決定した。

<記念式典の日時・場所>

- ・日 時 2011(平成23)年11月11日(金)
- ・場 所 大阪国際会議場
リーガロイヤルホテル

<テーマ>

誇りと誓い - 蓁蓁たる大樹へ -
大阪歯科大学創立100周年

<趣旨>

大阪歯科大学100年の伝統と実績に対する<誇り>と、これからの100年への新たな<誓い>を発揚することにより、<蓁蓁(しんしん)たる大樹>のように、多くの若く有能な歯科医師を輩出し、歯科医学界と社会に大きく根を張る大学を目指す。

*しんしん【蓁蓁】①草木の葉の盛んにしげるさま。
(「広辞苑」より)

2. 第22回日本歯科医学会総会について

平成24(2012)年10月、11月開催予定であり、本学が主幹校に決定した。平成20年度は、総会開催に関わる事前調査を行い、参考資料を収集した。平成21年度に暫時、実施体制の整備を行う予定である。

3. 3学舎（楠葉・牧野・天満橋）の管理費について の見直し

財務コンサルタントを導入したことにより、平成20年度において3学舎の管理費（保守契約、業務委託費等）の節減があり、一定の効果を上げた。今後とも物件経費の削減には継続的に取り組んでいく。

4. その他の事業-施設・設備関係

- ①牧野学舎相撲場新築工事

ODU NEWS No.154

教育研究経費支出は大学，附属病院，専門学校における教育，研究，診療等の経費であります。そのうち医療経費は附属病院の医療材料等の診療経費で，学生厚生費は社会福祉施設体験学習実習費，学内食堂補助費，学生賠償損害保険料，学生定期健康診断料，学友会援助金，大学祭補助，歯学体補助金等です。管理経

費支出は，主目的が教育研究以外の経費を意味しています。平成20年度は，教育研究経費支出，管理経費支出ともほぼ予算どおりの執行となっています。

施設関係支出の執行率が低くなっているのは，予定していた中央監視盤設備改修工事を執行しなかったためです。

平成20年度資金収支計算書 (平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)			
(単位：円)			
収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	5,504,410,000	5,408,760,000	95,650,000
手数料収入	30,776,000	40,148,900	△ 9,372,900
寄付金収入	29,200,000	26,259,000	2,941,000
補助金収入	556,454,000	626,512,688	△ 70,058,688
資産運用収入	385,624,000	446,540,299	△ 60,916,299
資産売却収入	0	0	0
事業収入	2,026,000,000	1,886,356,497	139,643,503
雑収入	296,800,000	237,737,050	59,062,950
前受金収入	1,283,550,000	938,570,000	344,980,000
その他の収入	1,541,942,000	1,420,177,606	121,764,394
資金収入調整勘定	△ 1,789,982,000	△ 1,638,975,398	△ 151,006,602
小計	9,864,774,000	9,392,086,642	472,687,358
前年度繰越支払資金	2,798,247,608	2,798,247,608	
収入の部合計	12,663,021,608	12,190,334,250	472,687,358
支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	4,784,336,000	4,484,883,498	299,452,502
教育研究経費支出	1,955,080,487	1,931,960,740	23,119,747
管理経費支出	531,681,850	549,964,927	△ 18,283,077
施設関係支出	70,000,000	29,175,447	40,824,553
設備関係支出	104,671,377	116,278,754	△ 11,607,377
資産運用支出	1,733,367,000	2,040,075,971	△ 306,708,971
その他の支出	307,696,000	579,136,193	△ 271,440,193
[予備費]	(9,598,714)		90,401,286
資金支出調整勘定	△ 214,172,000	△ 349,729,879	135,557,879
小計	9,363,062,000	9,381,745,651	△ 18,683,651
次年度繰越支払資金	3,299,959,608	2,808,588,599	491,371,009
支出の部合計	12,663,021,608	12,190,334,250	472,687,358

(注)予備費使用内訳

教育研究経費支出	医療経費支出	88,987
	修理費支出	325,500
管理経費支出	渉外費支出	6,688,850
設備関係支出	教育研究用機器備品支出	2,495,377
	合計	9,598,714

3. 消費収支計算書

(消費収入の部)

帰属収入は、学生生徒等納付金、補助金、事業収入等の法人の負債にならない収入の合計をいいます。平成20年度は専門学校の学納金及び医療収入が予算を下回りましたが、退職金規程の改定により退職給与引当金の額が減少したため、現金収入ではありませんがその取崩額7億円余りが雑収入として計上され、帰属収入は94億780万円になりました。また基本金組入額は3,100万円で、帰属収入から基本金組入額を控除し

た消費支出に充当することができる消費収入は93億7,600万円となり、予算に対して5億9,000万円の増となりました。

(消費支出の部)

資金収支計算表の資金支出の人件費支出、教育研究経費支出、管理経費支出の合計額から退職金支出を控除し、退職給与引当金繰入額、賞与引当金繰入額、減価償却額、資産処分差額を加えた額と医療経費に貯蔵品(薬品、材料の棚卸資産)の調整を加えた額が消費支出の部合計となります。

平成20年度消費収支計算書 (平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)			
(単位:円)			
消費収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	5,504,410,000	5,408,760,000	95,650,000
手数料	30,776,000	40,148,900	△ 9,372,900
寄付金	39,200,000	35,140,352	4,059,648
補助金	556,454,000	626,512,688	△ 70,058,688
資産運用収入	385,624,000	446,540,299	△ 60,916,299
資産売却差額	0	0	0
事業収入	2,026,000,000	1,886,356,497	139,643,503
雑収入	488,703,000	964,393,815	△ 475,690,815
帰属収入合計	9,031,167,000	9,407,852,551	△ 376,685,551
基本金組入額合計	△ 244,700,000	△ 31,361,312	△ 213,338,688
消費収入の部合計	8,786,467,000	9,376,491,239	△ 590,024,239
消費支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	4,415,448,000	4,339,887,117	75,560,883
教育研究経費	2,958,098,487	2,967,027,501	△ 8,929,014
管理経費	741,224,850	756,834,357	△ 15,609,507
資産処分差額	0	16,829,048	△ 16,829,048
徴収不能額	0	1,714,739	△ 1,714,739
[予備費]	(7,103,337)		92,896,663
	92,896,663		
消費支出の部合計	8,207,668,000	8,082,292,762	125,375,238
当年度消費収入超過額	578,799,000	1,294,198,477	
前年度繰越消費支出超過額	22,433,309,384	22,433,309,384	
基本金取崩額	0	1,141,229,714	
翌年度繰越消費支出超過額	21,854,510,384	19,997,881,193	

(注)予備費使用内訳

教育研究経費	医療経費	88,987
	修理費	325,500
管理経費	渉外費	6,688,850
	合計	7,103,337

ODU NEWS No.154

貸借対照表 (平成21年3月31日)			
(単位:円)			
資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	55,986,846,460	55,635,214,557	351,631,903
有形固定資産	22,547,724,179	23,648,245,317	△ 1,100,521,138
土地	5,397,487,608	5,397,487,608	0
建物	11,760,582,143	12,046,158,510	△ 285,576,367
建物付属設備	2,661,336,897	3,350,516,474	△ 689,179,577
構築物	222,205,599	233,666,569	△ 11,460,970
教育研究用機器備品	1,306,238,936	1,422,157,686	△ 115,918,750
その他の機器備品	50,447,313	58,763,105	△ 8,315,792
図書	1,145,900,482	1,133,620,033	12,280,449
車輛	3,525,201	5,875,332	△ 2,350,131
その他の固定資産	33,439,122,281	31,986,969,240	1,452,153,041
電話加入権	6,626,468	6,626,468	0
有価証券	40,667,803	40,667,803	0
長期貸付金	271,685,000	317,085,000	△ 45,400,000
第3号基本金引当特定資産	29,674,363,167	29,643,001,855	31,361,312
退職金引当特定資産	1,503,356,587	368,133,941	1,135,222,646
減価償却引当特定資産	1,293,847,855	991,406,947	302,440,908
有価証券購入資金引当特定資産	121,861,365	118,895,135	2,966,230
医療機器購入資金引当特定資産	184,567,886	162,862,146	21,705,740
記念行事引当特定資産	101,067,750	80,246,545	20,821,205
敷金・保証金	2,400,000	2,400,000	0
学生奨学金貸付金	238,678,400	255,643,400	△ 16,965,000
流動資産	3,222,068,568	3,614,587,592	△ 392,519,024
現金・預金	2,808,588,599	2,798,247,608	10,340,991
未収入金	395,935,398	796,669,415	△ 400,734,017
貯蔵品	7,726,257	11,634,805	△ 3,908,548
前払金	9,818,314	8,035,764	1,782,550
資産の部合計	59,208,915,028	59,249,802,149	△ 40,887,121
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	5,115,065,761	5,963,095,840	△ 848,030,079
退職給与引当金	5,115,065,761	5,963,095,840	△ 848,030,079
流動負債	1,776,114,325	2,294,531,156	△ 518,416,831
未払金	397,630,789	460,551,837	△ 62,921,048
前受金	938,570,000	1,243,040,000	△ 304,470,000
預り金	188,586,436	315,989,152	△ 127,402,716
賞与引当金	251,327,100	274,950,167	△ 23,623,067
負債の部合計	6,891,180,086	8,257,626,996	△ 1,366,446,910
基本金の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	41,969,252,968	43,110,482,682	△ 1,141,229,714
第3号基本金	29,674,363,167	29,643,001,855	31,361,312
第4号基本金	672,000,000	672,000,000	0
基本金の部合計	72,315,616,135	73,425,484,537	△ 1,109,868,402
消費収支差額の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費支出超過額	19,997,881,193	22,433,309,384	△ 2,435,428,191
消費収支差額の部合計	△ 19,997,881,193	△ 22,433,309,384	2,435,428,191
科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	59,208,915,028	59,249,802,149	△ 40,887,121

消費収入と消費支出を対比して消費収入が多い場合は消費収入超過額、消費支出が多い場合は消費支出超過額となります。平成20年度は、消費収入の部合計 93 億 7,649 万 1,239 円、消費支出の部合計 80 億 8,229 万 2,762 円で 12 億 9,419 万 8,477 円の当年度消費収入超過額となりました。

当年度消費収入超過額の要因は、退職給与引当金取崩額 7 億 2,665 万 6,765 円が雑収入として計上されたのが大きいですが、それを控除しても 5 億 6,754 万 1,712 円の収入超過となります。給与改定による総人件費の抑制及び経費削減努力が実を結び、支出超過から収入超過へ収支構造を大きく変化させたといえます。前年度繰越消費支出超過額に当年度消費収入超過額を減じ、さらに基本金取崩額 11 億 4,122 万 9,714 円を減じた 199 億 9,788 万 1,193 円が翌年度消費支出超過額となります。24 億円余り改善されたこととなります。

4. 貸借対照表

当該会計年度と前会計年度とを比較し、資産の増減を比較して財産の状態を明らかにするものです。

(資産の部)

資産の部合計は、592 億 0,891 万 5,028 円で前年度より 4,088 万 7,121 円の減少となりました。有形固定資産の減少は減価償却と機器備品の廃棄によるものです。その他の固定資産は、一般会計から特定資産への繰り入れにより、14 億 5,215 万 3,041 円と大幅に増加しています。

(負債の部)

負債の部合計は、68 億 9,118 万 0,086 円で前年度より 13 億 6,644 万 6,910 円の減少となりました。負債の主なものは、退職給与引当金ですが、それが減少したことにより負債が減りました。

(基本金の部)

基本金の部合計は 723 億 1,561 万 6,135 円で前年度より 11 億 0,986 万 8,402 円減少しました。第 1 号基本金は、土地、建物、機器備品、図書等有形固定資産の取得価格です。使われなくなった機器備品を廃棄処理したため第 1 号基本金が減少しました。第 3 号基本金は、基金として継続的に保持する資産の額で基本資金、学術研究奨励資金学生奨学資金の額です。第 4 号基本金は、恒常的に保持すべき支払資金で文部大臣の定める額です。

(消費収支差額の部)

消費収支計算書の翌年度繰越消費支出超過額と一致しています。



学位(博士)授与報告



金 賢黙 乙第1530号 (平成21年6月24日)

非接触型共振周波数解析装置によるインプラント初期安定性測定の測定誤差に関する研究

土佐 淳一 乙第1531号 (平成21年6月24日)

咬頭嵌合位の安定性と顎機能障害との関連に関する研究

中塚美智子 乙第1532号 (平成21年6月24日)

Expression of TRPV4 in the stimulated rat oral mucous membrane - Nociceptive mechanisms of lingual conical papillae - (ラット口腔粘膜刺激による TRPV4 の発現 - 舌円錐乳頭における侵害受容機構 -)

河村 泰治 乙第1533号 (平成21年6月24日)

乳歯初期う蝕活動性評価への QLF の応用

野村 昌代 乙第1534号 (平成21年6月24日)

Effect of combined use of daidzein and raloxifene on osteoblast-like cells (ダイゼインにラロキシフェンを併用した時の骨芽細胞への影響)

吉田 邦晃 乙第1535号 (平成21年6月24日)

成人歯科健診の受診間隔と口腔保健状態との関連

田中 浩二 乙第1536号 (平成21年6月24日)

学童期におけるう蝕経験歯数の度数分布による解析

上村 守 乙第1537号 (平成21年6月24日)

Morphological study of the connective papillae and the capillary loops on the lingual dorsum in the type 2 diabetes melitus model rats (2型糖尿病モデルラットにおける舌背の結合組織乳頭と毛細血管ループに関する形態学的研究)

西川 博之 乙第1538号 (平成21年6月24日)

Random amplified polymorphic DNA assay による Prevotella intermedia バイオフィーム関連遺伝子の追求

6月より歯周外科の先進医療実施

副病院長・歯周治療科科長 上田 雅俊



大阪歯科大学附属病院では、歯科医療の充実・高度化に向け邁進していますが、6月1日(月)付けで厚生労働省より、数年前より当病院歯周治療科で自費診療として行ってきた歯周組織再生療法の一つである「歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法(歯周炎における重度垂直性骨欠損に係わるものに限る)」が先進医療技術として、当科における実施が認められました。

先進医療とは、厚生労働省が国民の先進医療への選択肢を拡げ、利便性を向上させる観点から一般の保険診療における医療水準を越える高度の医療技術を用いた療法として承認された医療行為のことです。医療技術ごとに専門医、スタッフ、症例実績および医療安全管理などにおいて一定の施設基準を満たす医療機関に対して保険診療との併用が認められています。

先進医療は、一般的な保険診療を受ける中で、患者さまが希望し、医師がその必要性と合理性を認めた場合に行われることとなります。当病院では、該当される患者さまには、事前に治療内容や必要な費用などについて説明を行い、患者さまが説明内容に十分に納得していただいた上で同意書に署名していただき、治療を始めることとなります。

なお、先進医療を受けた時は、「先進医療に係わる費用」は、患者さまの全額自己負担となります。「先進医療に係わる費用」以外の通常の治療と共通する部分については、一般の保険診療と同じ扱いとなります。

当病院が歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法の先進医療施設として認められたことにより、尚いっそう歯科医療の高度化・先進化に努めていきたい。また、この治療方法について患者さまへの案内、説明などの周知徹底を図るとともに治療技術、治療効果を高めていきたい。

注) 歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法

本法は、歯周炎により破壊された歯周組織を再生させるため、セメント質の形成に関与する蛋白質を主成

分とする歯周組織再生誘導材料を用い、歯肉剥離掻爬術(フラップ手術~歯肉を切開し、歯石と歯槽骨の悪い部分を取り除く手術)と同様の手技を用いた上で、直接、歯槽骨欠損部に填入するだけであり、従来の歯周組織再生誘導法(GTR法)のような複雑な手術を必要としない。比較的、簡便で低侵襲(生体への影響が少ない)の歯周外科治療であるにもかかわらず、GTR法に比べ、同等あるいはそれ以上の歯周組織再生が期待できる。また、この治療による合併症等のリスクも低いとされている。

第17回大阪歯科大学公開講座テーマ決定

今年で第17回を迎える《大阪歯科大学公開講座》のメインテーマとサブテーマが決定した。メインテーマは「健やかな人生は、口と歯の健康から!」とし、以下のサブテーマおよび講師により開講されることとなった。

- 歯並びと咬み合わせの大切さ(担当:松本尚之教授)
- 成人の歯を守る(担当:三宅達郎准教授)
- 子供の歯を守る(担当:大東道治教授)
- シニアの歯を守る(担当:小正 裕教授)

今回から、1日に2つのサブテーマを開講する形式に変更し、天満橋講座が平成21年9月5日(土)、9月12日(土)、枚方講座が平成22年2月27日(土)、3月6日(土)のそれぞれ2週での日程となった。また、講座修了証を受講者全員に授与することになった。

なお、11月21日(土)には、川添堯彬理事長・学長と覚道健治附属病院長による特別講演が、大阪府立男女共同参画青少年センター(ドーンセンター)で開催されることも決まった。

関係団体に後援を依頼するとともに、ポスター・チラシの配布、本学ホームページで講座開講の案内を掲載する他、電話、ファックス、メールにて受講を受け付けることになっている。

○公開講座に関するお問い合わせ
TEL(072)864-3001
-大阪歯科大学公開講座係まで-

第16回大阪歯科大学公開講座 好評のうちに終了

昨年夏期の天満橋講座に続き、「8020運動」支援病院としての取り組み 今、専門外来では！」をメインテーマにした冬期の枚方講座が、2月21日(土)から3月14日(土)までの毎週土曜に開催され、盛況のうちに終了した。受講者数は、天満橋講座で延べ444名(男性154名、女性290名)、枚方講座で延べ523名(男性227名、女性296名)であった。

今回から、従来の講演集(B6サイズ)を抄録集(A4サイズ)に変更して、当日にテキストとして配付したところ、受講者の方々から「たいへん参考になり、歯科医学への関心が高まった。」との好評をいただいた。

今回の「大阪歯科大学公開講座抄録集」は、ホームページに公開している。

第16回大阪歯科大学公開講座 演題と講師

平成20年9月13日(土)・平成21年2月21日(土)
○顎変形症外来ー顎のゆがみと噛み合わせの異常ー 中嶋 正博准教授(口腔外科学第二講座)
平成20年8月30日(土)・平成21年2月28日(土)
○白い歯外来 山本 一世教授(歯科保存学講座)
平成20年8月23日(土)・平成21年3月7日(土)
○息さわやか外来(口臭外来) 上田 雅俊教授(歯周病学講座)
平成20年9月6日(土)・平成21年3月14日(土)
○ドライマウス・ドライアイ外来 ードライマウスー 森田 章介教授(口腔外科学第一講座) ー目の生活習慣病 ドライアイー 岸本 直子病院教授(眼科)

新型インフルエンザへの本学の対応

世界的に感染拡大が続いている「新型インフルエンザ」に関して、本学では学生・教職員に対して、以下のとおりホームページ、メール配信及び学内掲示などで周知徹底を図った。

新型インフルエンザ対応の経緯

平成21年5月 1日(金)
○学生に海外旅行の禁止を告知 ○教職員に海外渡航の全面禁止を告知
平成21年5月14日(木)
○学生、教職員に対して第2報を告知 成田空港で感染者が発生したことにより、文部科学省からの感染対策徹底の通知を受け、マスク使用など注意を告知。
平成21年5月18日(月)
○学生に緊急告知 兵庫県、大阪府に感染者が拡大している状況を踏まえ、5月19日(火)から5月24日(日)までの間の休講とクラブ活動の禁止を通知。 教職員には、平常勤務となること、感染対策を続行することを緊急連絡。
平成21年5月22日(金)
○学生に告知 5月25日(月)から平常授業を行う旨告知、咳エチケット等の励行を掲示。

第10回学園都市ひらかた推進協議会

枚方市内6大学(関西外国語大学、関西医科大学、摂南大学薬学部、大阪国際大学、大阪工業大学情報科学部、本学)と枚方市で構成されている「学園都市ひらかた推進協議会」が、去る5月8日(金)午前10時から関西医科大学附属枚方病院で開催された。当日は、本学から協議会委員の川添理事長・学長と幹事の中村大学事務部長が出席した。

協議会では、平成20年度事業報告、平成20年度決算報告、平成21年度事業計画、平成21年度予算の審議が行われた。毎年行われる協議会事業に本学は積極的に参加しているが、平成20年度は、「コミュニティカレッジ」を3講座開講し、山中准教授、松本教授、岡崎教授がそれぞれ講師を担当した他、「市内6大学・高等学校合同音楽祭」に本学の軽音楽部が参加し市民の前に演奏を披露した。

平成21年度は、市内の小学生が参加する「こども大学探検隊」、前年度好評であった「市内6大学・高等学校合同音楽祭」にも参加する予定である。

「道徳心教育検証フォーラム」開催

4月11日(土)17時30分から本学講堂において、社団法人枚方青年会議所主催、枚方市・枚方市教育委員会後援による「道徳心教育検証フォーラム」が開催された。

フォーラムは2部構成で、第1部はジャーナリストの櫻井よしこ氏が「伝えよう日本のこころ」と題して講演した。第2部はパネルディスカッションで「いま、日本のモラルは？教育は？」をテーマに、櫻井氏のほか北京オリンピック400メートルリレーの銅メダリスト・朝原宣治氏、枚方市宮之阪教育相談所所長・中川信雄氏をパネラーに迎え、主催者の枚方青年会議所理事長・稲田義治氏がコーディネーターを務めた。

会場は、著名なジャーナリストの櫻井氏が講演されるということもあり、また北京五輪で活躍した朝原氏がパネラーとして出席したこともあって、2階席まで埋まりほぼ満席となり、熱気にあふれていた。

フォーラムに際し、櫻井よしこ氏と本学の川添学長が教育や道徳について歓談した。



主催者の稲田氏・講演者の櫻井氏とともに

相撲道場<木鶏館>完成・道場開き開催

<木鶏館>と命名された相撲道場(軽量鉄骨造、建築面積 112.50 m²)が、このほど牧野学舎(温室跡地)に完成し、その道場開きが去る5月10日(日)10時から、土俵前にて執り行われた。

当日は、来賓の西日本学生相撲連盟会長である北村光雄氏をはじめ多数の相撲部OB、また本学を代表して村上 勝常務理事(相撲部OB)、田中教務部長、諏訪学生部長、相撲部部長の西川教授など関係者が出席した。神事は、片埜神社から宮司を招き執り行われ、引き続き来賓の北村会長と、村上常務理事から、本学の伝統ある相撲部を顕彰して祝辞が述べられ、滞りなく終了した。

その後、OB、本学学生による初稽古が行われ、部活動の新たな一歩が踏み出された。本学相撲部は、明治44(1911)年の大阪歯科医学校設立とほぼ時を同じくして創部され、本学の歴史とともに歩んできた。伝統ある相撲部の一層の活躍を期待してやまない。



歯科衛生士・筒井 睦さん歯学博士に

歯科衛生士の筒井 睦さんが、仕事をしながら新潟大学の大学院に学び、去る3月に歯学博士の学位を取得されましたので紹介します。



筒井さんは、平成17年に新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔健康科学講座の小児歯科学分野に社会人として入学され、仕事に関連した患者心理および小児患者の心理状態・行動様式を研究テーマに選び、その成果を「歯科診療における小児の心理状態と行動の把握 - CFSS-DS, Faces Rating Scales および色選択法を用いた検討」というタイトルの学位論文にまとめ、晴れて歯学博士とされました。筒井さんは、本学歯科衛生士専門学校を卒業後、すぐ附属病院に就職され社会人となりましたが、勤務の傍らこれまでに立命館大学文学部人文学科、京都教育大学大学院研究科修士課程(障害児教育専攻)をそれぞれ卒業、修了され、そしてこのたび博士の学位を取得されたわけです。その向学心とエネルギーには驚くほかありません。

筒井さんは、大学院で研究したことを実際の小児歯科や障害者歯科の現場で活かし、患者さんの心理状態、精神状態の把握に努め、まさに患者中心主義の診療のサポート役として貴重な役割を果たされています。仕事と学業を両立させる上で大変だったことは、自分の研究方法であるアンケート調査等のデータを統計的に検討するというスタイルを受け入れてもらえる大学院が少なく、結果として新潟大学という遠距離の大学で研究することになり、通学に時間とお金がかかったことだそうです。

本学でも、社会人大学院生に門戸を開き、歯科技工士、歯科衛生士、看護士なども意欲のある人は受け入れる体制を整えていただければありがたいとの感想を述べられていました。

第53回大歯・九歯ラグビー定期戦
大学29期・ラグビー部OB 林 譲治

4月29日(祝)、「第53回大歯・九歯ラグビー定期戦」が雲ひとつない快晴のもと、敵地北九州市小倉アステムの森グラウンドで行われた。



およそ30年ぶりに小倉まで応援に出かけましたのも、私事で恐縮ですが、縁ありまして愚息が今春より九州歯科大学ラグビー部にお世話になることになったからです。私が現役のころは、まだ路面電車が走っており、高い建物も見当たらなかったように記憶していますが、駅前のビル郡を目の当たりにして時の流れを感じました。

肝心の定期戦の方は、前半は5-7の互角の勝負、後半は九歯に先に得点されるも、その後は我が大歯チームも再三、九歯ゴール前まで迫る展開となったが、九歯の好守に阻まれ残念ながら5-24で勝利することができませんでした。しかしながら、53回の伝統を誇る定期戦の名に恥じない白熱した試合で、点差ほどの力の差は感じませんでしたので、来年はきっとリベンジしてくれるものと確信いたしております。そのあとOBを中心とした試合も行われ、若いも若きも楯球を追ってグラウンドを駆け巡り、必死のプレーが展開されました。しかし、終了の笛とともに、敵味方なくノーサイドの精神にのっとり、笑顔で互いの健闘を称えあいました。

試合後は、懇親会にて久しぶりにお会いした九歯大OBの方々に歓待していただき、思い出話に花が咲き楽しいひと時を過ごしました。本当にラグビーをやっていて良かったと思える一日でありました。





2009. 4. 29
大歯・九歯ラグビー定期戦



平成21年度 解剖体慰霊祭

新緑の五月晴れの中、5月15日(金)午後2時より四天王寺五智光院において、平成21年度解剖体慰霊祭が500名を超える参列のもと、厳かに執り行われた。

開会前の喧騒が導師入堂を告げる半鐘の音により、瞬く間に式場全体が荘厳な静寂に包まれ、その静寂な中、導師入堂に合わせて開式の言葉が述べられた後、解剖学講座諏訪教授から祭文が奉読された。荘厳な読経の中、尊いご遺体を捧げられた御霊のご冥福を祈念して参列者一同、焼香を行った。続いて、大阪歯科大学を代表して川添理事長・学長から、歯科医学の教育研究発展のため篤志をもってご献体いただいた故人、ご遺族ならびにご協力を賜っている黄菊会会員の方々に深甚なる謝意が表され、献体者^故亀井純一殿他7名のご遺族に対して文部科学大臣感謝状が授与された。最後に、学生を代表し第3学年五條祐基君が、解剖実習を無事終えたことへの感謝のこぼを霊前に寄せ、参列した学生全員が立礼をして感謝の気持ちを表した。

慰霊祭終了後、ご遺族ならびに各参列者は元三大師堂の本学慰霊碑前へ移動して回向を行った。また、黄菊会第37回総会が開催され、議事どおり終了した。

平成21年度 父兄会・共済会総会

平成21年度父兄会・共済会総会が、6月27日(土)に楠葉学舎において開催された。併せて、父兄会幹事会、学年別個人面談、幹事懇親会も行われた。

当日は、梅雨の合間の晴天に恵まれ、ご父母で参加された方も多く、400名余りの出席のもと、午後1時から総会が開催された。会員逝去者への黙祷、新旧幹事長の挨拶、学長挨拶、学内報告のあと学業評価方法をはじめCBT、OSCE、卒後研修の説明が行われた。議事では、平成20年度父兄会・共済会決算および平成21年度予算、1学年の幹事選出、共済会規約および奨学貸付規定の改正について報告があり承認された。

幹事会では、平成21年度副幹事長および常任幹事について審議され、議案どおり承認された。また、今春卒業した学年の常任幹事および幹事に対して感謝状が

贈呈された。また、学年別個人懇談会では、学年指導教授ならびに助言教員からご子弟の就学状況、生活指導等についての話が個別に行われた。

午後4時頃から食堂において幹事懇親会が開催され、100名余りのご父母と指導教授、助言教員が忌憚のない意見交換を行った。

第29回日本歯科薬物療法学会「総会・学術大会」本学で開催

6月19日(金)～21日(日)の日程で、第29回日本歯科薬物療法学会「総会・学術大会」が本学で開催され、会長を小児歯科学講座の大東道治教授が務めた。

19日は、天満橋学舎において理事会ならびに評議員会、20日からは会場を楠葉学舎に移し学術大会ならびに総会が開催された。学術大会は、講堂を主要会場として14題の一般講演のほか特別講演、教育講演、講習会などが開催され、教育講演では口腔外科学第1講座の森田章介教授が、「顎骨骨髄炎の種々相」と題して講演した。

最後に、シンポジウム「小児の歯内療法に用いる新たな薬剤の開発と最新の知見」が行われ、本学が開催を担当した総会・学術大会は無事終了した。

平成20年度第2回人権講演会「薬物乱用の現状と対策」

昨年11月に起こった病院嘱託医の薬物不法所持事件を受け、本学では、学生および教職員に対して「薬物の危険性に対する啓蒙活動」を行ってきたが、今回、病院の教職員を対象として、3月10日午後5時より平成20年度第2回人権講演会を天満橋学舎西館5階臨床講義室で開催した。講師として、大阪府警察本部薬物対策課の伊堂寺氏を招き、「薬物乱用の現状と対策」と題して講演していただいた。

最初に、警察庁製作のビデオ「トラップ“罠”」が放映され、さまざまな形で薬物と一般市民や大学生との接点を描き出し、身近に潜む薬物の恐ろしさを訴え

人 事

称号授与

名誉教授 川添 堯彬
名誉教授 新池 孜
以上 H. 21. 4. 1付

教員採用

物理学教室 助教 一宮 正義
口腔解剖学講座 助教 上田 甲寅
口腔解剖学講座 助教 安 春英
薬理学講座 助教 大谷 政博
歯科保存学講座 助教 竹内 撰
歯周病学講座 助教 能登原靖宏
高齢者歯科学講座 助教 高橋 一也
欠損歯列補綴咬合学講座 助教 土居 聖
口腔外科学第一講座 助教 岩井 理恵
歯科矯正学講座 助教 居波 薫
小児歯科学講座 助教 永田 幸子
耳鼻咽喉科学講座 助教 濱本由記子
以上 H. 21. 4. 1付

昇 任

物理学教室 准教授 辻林 徹
生物学教室 准教授 檜枝 洋記
歯科矯正学講座 講師 西浦 亜紀
歯科矯正学講座 講師 飯田 拓二
小児歯科学講座 講師 原田 京子
以上 H. 21. 4. 1付

出 向

口腔外科学第一講座 助教 福地 和秀
H. 21. 4. 1付

任 用

主任教授 豊田 紘一, 川合進二郎
佐ノ木幸夫, 諏訪 文彦
岩井 康智, 西川 泰央
池尾 隆, 田中 昭男
福島 久典, 大浦 清
武田 昭二, 神原 正樹
山本 一世, 林 宏行
上田 雅俊, 小正 裕
岡崎 定司, 森田 章介
覚道 健治, 松本 尚之

清水谷公成, 大東 道治
小谷順一郎, 堂前 尚親
以上 H. 21. 4. 1付

職員採用

附属病院 歯科衛生士 長谷川花織
附属病院 歯科衛生士 横瀬麻衣子
歯科衛生士専門学校 助手 大西 愛
以上 H. 21. 4. 1付

昇 進

歯科技工士専門学校 教員 藤田 暁
以上 H. 21. 4. 1付

所属異動

大学院課 課長 池田 良則
歯科技工士専門学校事務室 室長 種坂 隆志
総務課人事担当 事務職員 赤石 孝博
教務学生課 事務職員 原 美津恵
歯科技工士専門学校事務室 事務職員 中西 隆也
以上 H. 21. 5. 1付

兼 務

中央歯学研究所事務室 室長 池田 良則
総務課人権担当 課長 種坂 隆志
歯科衛生士専門学校事務室 室長 種坂 隆志
歯科技工士専門学校事務室 事務職員 北山恵美子
歯科衛生士専門学校事務室 事務職員 中西 隆也
以上 H. 21. 5. 1付

兼務解除

歯科衛生士専門学校事務室 室長 池田 良則
大学院課 課長 牧谷 弘幸
中央歯学研究所事務室 室長 牧谷 弘幸
総務課広報担当 課長 種坂 隆志
以上 H. 21. 4. 30付

休職期間満了による退職者

附属病院 看護師 下田 智恵
H. 21. 6. 24付

委 嘱

客員教授 玉置 敏夫, 山下 敦
末瀬 一彦, 宇山 昌延
森 昌彦, 熊崎 護
二階 宏昌, 北條 博一
螺良 愛郎
以上 H. 21. 4. 1付
Visiting Professor Harry L. Dougherty

ODU NEWS No.154

David R. Avery
 Chitta Ranjan Choudhury
 金 岩
 朴 榮 國
 申 濟元
 金 麗甲
 飯塚 建行
 Mark McGurk
 以上 H. 21. 4. 1付

嘱託 カウンセラー (精神科医) 森 悦子
 嘱託 臨床心理士 畑 聡美
 嘱託 医師 川口あすか, 前原さおり
 梅垣 裕, 奥田 隆彦
 西村 哲哉, 木本 高志
 螺良 愛郎, 香西 雅介
 嘱託 歯科医師 近森 信人
 以上 H. 21. 4. 1付

病院医員

保存修復科 鋏形 園恵, 吉中 尚之
 歯内治療科 畠 容子, 藤代 雅也
 山本 知里
 歯周治療科 阿部健一郎, 田幡 元
 山口 莊一, 奥野 博人
 岩田 直子
 高齢者歯科 奥田麻由子, 河島 奈々
 小林依里子, 福岡 拓郎
 村田 澄子, 藤田 崇夫
 寒川麻智子
 補綴咬合治療科 (有歯) 覚道 芳宏, 後藤 雅
 得津 元, 大河 広伸
 永尾 勝正, 田中 雅章
 補綴咬合治療科 (欠損) 上野亜希子, 笠原 由衣
 記村 優, 森 景子
 岸保 愛子, 羽原 貴恵
 口腔外科第1科 小川裕美子, 松島 由紀
 伊藤公美子, 神吉 秀典
 原田 圭, 田中 洋充
 口腔外科第2科 奥田 勝也, 嶋田 景介
 本橋 具和, 山田 洋正
 森 悠衣, 砂田 典子
 矯正歯科 江藤 美希, 永井 裕子
 山中 知, 森下 愛子

中道佳菜代
 口腔インプラント科 大口 直輝, 阪田 俊智
 角倉 毅, 深瀬 亜希
 谷山 智秀
 小児歯科・障害者歯科 国本 絢子
 歯科麻酔科 田中沙里奈, 豊永 達宣
 石川 素子
 臨床研修教育科 足達 慶輔, 小林 正和
 総合診療・診断科 中道 里佳, 中川 敦嗣
 松枝 正樹
 以上 H. 21. 4. 1付

医療嘱託

口腔インプラント科 新井 是宣
 H. 21. 4. 1付

ポストドクトラルフェロー

口腔外科学第二 室井 悠里
 歯科麻酔科 大草 知佳
 以上 H. 21. 4. 1付

リサーチ・アシスタント

解剖学 江原 大輔
 H. 21. 5. 1付

大阪歯科大学附属病院財務改善検討委員会委員
 田中 昭男
 H. 21. 6. 25付

業者登録選考委員会委員 田中 修
 H. 21. 4. 23付

共用試験歯学OSCE実行委員会委員
 高橋 一也, 松本 尚之
 以上 H. 21. 4. 1付

ネットワーク小委員会委員 竹内 摂, 居波 薫
 以上 H. 21. 5. 1付

第一学年 学年指導教授 武田 昭二
 助言教員 樫 則章, 野田 知宣
 藤原 眞一, 上村 守
 中塚美智子, 堂前 英資

第二学年 学年指導教授 西川 泰央
 助言教員 辻林 徹, 牧田 佳真
 檜枝 洋記, 戸田 伊紀
 隈部 俊二, 内橋 賢二

第三学年 学年指導教授 池尾 隆
 助言教員 合田 征司, 富永 和也
 山根 一芳, 野崎 中成

第四学年 学年指導教授 大島 浩, 土居 貴士
 助言教員 岡崎 定司
 井上 博, 和唐 雅博
 山中 武志, 篠原 光子
 今井 弘一, 川崎 弘二

第五学年 学年指導教授 松本 尚之
 助言教員 高津 兆雄, 伊崎 克弥
 田中 昌博, 兼平 治和
 吉田 博昭, 大西 祐一

第六学年 学年指導教授 林 宏行
 副学年指導教授
 山本 一世, 清水谷公成
 助言教員 吉川 一志, 田 匡宏
 飯田 拓二, 古跡 孝和
 竹安 正治, 橋本佳代子
 以上 H. 21. 4. 1付

校友会会長 上田 雅俊
 H. 21. 4. 1付

臨床研修管理運営委員会外部委員
 山口 邦男, 田口 洋見
 江原 雄二
 以上 H. 21. 4. 1付

大阪歯科大学附属病院歯科医師臨床研修プログラム
 総括責任者 覚道 健治
 副総括責任者 小谷順一郎, 森田 章介
 上田 雅俊

院内研修担当者部会長 山本 一世
 院外研修担当者部会長 小出 武
 保存系責任者 上田 雅俊
 補綴系責任者 岡崎 定司
 口腔外科系責任者 森田 章介
 単独型プログラム責任者 紺井 拡隆
 単独型副プログラム責任者 小川 文也, 大井 治正
 北野 忠則

複合型プログラム責任者 清水谷公成
 複合型副プログラム責任者 岩田 有弘, 畠 銀一郎
 河野 智生, 柿本 和俊
 楠本 哲次, 前田 照太
 井関 富雄, 中嶋 正博
 松本 尚之, 古跡 孝和
 嘉藤 幹夫, 百田 義弘
 米田 護, 井上 雅裕

指導歯科医 (単独型、複合型兼任)
 吉川 一志, 至田 宗泰
 高津 兆雄, 伊崎 克弥
 佐藤 正樹, 西崎 宏
 米谷 裕之

指導歯科医 (単独型) 岩田 有弘, 畠 銀一郎
 河野 智生, 柿本 和俊
 楠本 哲次, 前田 照太
 井関 富雄, 中嶋 正博
 松本 尚之, 古跡 孝和
 嘉藤 幹夫, 百田 義弘
 米田 護, 辻 準之助
 福住 峯行, 菊池 優子
 井上 雅裕

指導歯科医 (複合型) 谷本 啓彰, 初岡 昌憲
 鈴木康一郎, 西田 尚敬
 西川 郁夫, 池永 英彰
 稲本 雄之, 緒方智壽子
 樋口 裕一, 小野 圭昭
 井上 太郎, 川本 章代
 田中 栄士, 高橋 一也
 田中 昌博, 更谷 啓治
 柏木 宏介, 土佐 淳一
 田中 順子, 鳥井 克典
 藤井 孝政, 兼平 治和
 川野 晃, 吉峰 茂樹
 呉本 晃一, 山本さつき
 奥田 恵司, 土居 聖
 吉田 博昭, 田伏 信
 松本 和浩, 佐野 寿哉
 福田あおい, 大西 祐一
 堀井 活子, 窪 寛仁
 後藤 基宏, 正重 裕一
 西浦 亜紀, 飯田 拓二
 蓮舎 寛樹, 坂本恵美子
 板垣 恵輔, 四井 資隆
 蒲生 祥子, 大東 希好
 園本 美恵, 人見さよ子
 竹安 正治, 佐久間泰司
 杉岡 伸悟, 加藤 裕彦
 橋本佳代子, 永目 誠吾
 尾形 圭五, 青木 秀哲

講師(非常勤)委嘱	<p>城山 明宏, 松本 晃一 辻 一起子, 辰巳 浩隆 三ヶ山茂樹, 大西 明雄 樋口 恭子, 江藤 隆徳 山田 裕, 金平裕久美 以上 H. 21. 4. 1付</p>	口腔病理学講座	<p>岡下 守正, 芦田 欣一 善 睦彦, 奥野 夏樹 前田満里子, 新谷 牧 岡村 敬次, 松井 正剛 川口 佳夫, 武田 良一 東浦 宏守, 和田 聖二 河原 康二, 佐久間 勲 筒井 淳, 西村 泰典 畑 慎太郎</p>
解剖学講座	<p>清水 孝治, 蔵前 勝彦 疋田 芳寛, 島田 純治 中村 雅彦, 江原 雄二 大塚 拓三, 中道 哲 北村清一郎, 牧草 一人 三宅 晴記, 藤原 成樹 松川 信夫, 武田 安弘 中辻 勇志, 池 宏海 田中 毅彦, 大野久美子</p>	細菌学講座	<p>井上 純一, 小川 歙 村松 洋司, 伊藤 康夫 藤田 康一, 水野 周二 山本 範子, 吉竹 弘行 和手 甚京, 松野 ・晃 亀井 真紀, 太田 利光 多々見敏章, 中沢 賢一 小幡 登, 廣畑 顕一 森 直樹, 石原 研 水川 健司</p>
口腔解剖学講座	<p>藤井 征, 小林 徹 阪本 義之, 鄭 在泳 橋爪 年世, 菊池 史郎 多田 逸, 荻田 雄紀 山本 洋幸, 松田 哲一 椿井 孝芳, 朱 成淑 藤原 士郎 Rogelio Vilchis</p>	薬理学講座	<p>石川 協, 大草 修 森川 裕, 岡本 卓士 九門 好彦, 井上 博明 吉岡 三四, 宮田 敏生 坂本 伸人, 武内信二郎 高山 昭則, 河野 元一 村川 昇, 田地 陽一 狹川 正, 林 昭典 野阪ひとみ, 日高 厚</p>
生理学講座	<p>新谷 衛, 山本 修治 岸 文隆, 芳本 忍 榎村 光仁, 長谷川彰則 大野 榮, 高井 規安 稲田 條治, 陣内皓之祐 小山 なつ, 吉村 佳博 岩崎 精彦, 宮尾 治樹 村上 浩孝, 岩住 征紀 森 明彦</p>	歯科理工学講座	<p>西田 堯吉, 今西 嘉次 川原 大, 五老海輝一 片岡 喜平, 三浦 康伸 森口 泰成, 上田 明博 寛 晋平</p>
生化学講座	<p>藤田 厚, 塩路伊佐子 涌本 昇, 長澤 成明 畑下 芳史, 梁川 国昭 高石 佳知, 小坂 広之 高屋 毅史, 中川 雅夫 伊東 禎雄, 倉阪 雅巳 有山金一郎, 岩佐 勝也 田中 義人, 天方 靖治 前田潤一郎, 上野 眞徳</p>	口腔衛生学講座	<p>奥 忠之, 白石 雅照 今井 意晴, 野村 一夫 尾辻 淳, 藤井 由希 中川 哲也, 森野与史緒 熊崎 眞義, 村田 省三 井上 富夫, 小林 正憲 岡村 伸江, 奥村 信 日吉 紀子, 伊津 元博 平塚 靖規, 生内 信男</p>

歯科保存学講座
 清水 一彦, 高島隆太郎
 河見 忠雄, 黒瀬 信隆
 福井 敬和, 小山内 惺
 井上 昌孝, 谷 哲
 南 昌宏, 藤原 秀樹
 三木 秀治, 河村 昌哲
 藤田 昌弘, 吉原 正晃
 妻野 純朗, 廣瀬 泰明
 砂田 和久, 宮地 秀彦
 諏訪沙耶佳, 林原 久盛
 岩本 圭司, 白石 充
 塩見 聰, 奥野 一吉
 細見 環, 速水 茂
 巖 恭輔, 上村 学
 寺田 行男, 金村 成智
 河津 正文, 山田 健藏
 薄 孝, 逸見 浩史
 木村 喜彦, 上田 佳世
 辻 一郎, 吉川 伸
 堀 宏之, 松田 孝之
 川村 和仁, 下村 容規
 歯周病学講座
 横山 邦生, 林 正純
 南林 繁良, 中垣 直毅
 本城 範典, 西川 義公
 寺西 義浩, 畠山 善行
 松田 正文, 實重 英仁
 神田 浩, 岡西 裕公
 釜谷 晋平, 白井 健雄
 光山 誠, 民上 良徳
 福永 剛士, 英保 武志
 橋本 光示, 大塚 健司
 高齢者歯科学講座
 亀水 忠茂, 宮 博文
 浅井 加雄, 松尾 光至
 大槻 榮人, 田中 球生
 原 佳代子, 右遠 英悟
 額田 和門, 芦田 貴司
 北山 展弘, 井上 愛
 上田 章浩, 氷見 彰敏
 浅井 崇嗣, 村岡 正規
 藤岡宗之輔, 西岡 良子
 中井 基晴
 有歯補綴咬合学講座
 藤野 明, 鶴身 敬三

辻 功, 松島 諒
 太田 邦雄, 佐川 寛一
 河野 亘, 水井 雅則
 馬場 俊輔, 柳田 昌宏
 長砂 孝, 徳永 徹
 仲西 健樹, 田中 誠也
 瀧川 博嗣, 今井 敦子
 上田 直克, 佐古 好正
 木村 公一, 朴 康鈺
 欠損歯列補綴咬合学講座
 泉谷祐紀員, 加藤 博
 加藤 信次, 田 和也
 岡田 正傳, 奥田 昌義
 三谷 徹, 吉峰美千代
 奥田 啓之, 原 雄大
 藤原 到, 恩地 良幸
 池田 直也, 西川 敏文
 竜門 宏, 吉川 洋史
 岡本 吉宏, 島谷 肇
 上り口晃成, 小林 将之
 連 利隆, 島 盛隆
 大石 建三, 大杉 泰敏
 栗林 信仁, 佐々木 昇
 酒匂 潤, 小渕 匡清
 吉門 良祐, 植野 茂
 辻 要, 井上 明洋
 杉本 圭介, 卞 勝人
 清水ももこ, 松本 康宏
 黒田 卓, 篠田 豊
 木下 智
 口腔外科学第一講座
 仁木 寛, 有家 巧
 赤根 昌樹, 杉立 光史
 柚木 大和, 郷 真奈武
 林 秀一, 岩本守市良
 鹿野 学, 山崎 行庸
 岩崎 春美, 栗田 賢一
 森下 寛史, 田村 浩伸
 濱本 和彦, 阪本 貴司
 ・熊 雅彦
 歯科矯正学講座
 大浦 寿哉, 犬伏 俊嗣
 笹岡 邦夫, 中川 学
 金 漢俊, 高橋 啓
 山田 尋士, 大塚 重雄

金 錫俊, 関 詔夫
 壺内 建行, 長屋 和也
 岡林 聰, 速水 勇人
 本田 領, 山本 昌宏
 岡下慎太郎, 玉田 亨
 荒垣 芳元, 太田千佳子
 今井 一彦, 内海 潔
 江原 昌弘, 田中 義弘
 山崎 章, 木原 卓司
 川植 康史, 室井 誠
 松本 義之, 釜田 博史
 藤谷 富男, 川崎 靖典
 坂本 健吾, 林 靖久
 池本 博之, 石井 信行
 大道 士郎, 大谷 敬三
 梶本祐一郎, 嘉ノ海龍三
 佐伯 克彦, 高松 恒美
 大東 美穂, 中村 弘之
 濱田 義彦, 原 直仁
 保澤 静, 松尾 博之
 三戸 應則, 三村 雅一
 山尾 雅朗, 渡邊 邦一
 渡邊 景子, 白敷 慎也
 留守 信興, 中村 久美
 藤 喜久雄, 足立 了平
 河合 峰雄, 金銅 英二
 水野 誠, 姜 由紀
 釜田 隆, 安留 輝之
 松田 佳子, 金田 一弘
 弘兼 素子, 安東 大器
 大草 知佳
 高林 有道, 熊谷 俊一
 根住 直史, 濱中大三郎
 岡崎 俊朗, 梅原 久範
 米田 修, 薬師寺健太郎
 奥田 恵子, 宮地 理彦
 原川 奈梨
 田幡 純, 田幡 治
 服部 一秀, 森本伊智郎
 谷 泰元朗, 窪 盛偉
 鎌田 守人, 山下 雅資
 城戸 仁博

歯科放射線学講座

小児歯科学講座

歯科麻酔学講座

内科学講座

耳鼻咽喉科学講座

一般教育科目

人権論 久保井規夫
 文学 石黒 義昭
 医療人のための文章表現 石黒 義昭
 心理学 一言 英文
 社会学 平 英美
 総合基礎英語 片岡 宏仁, 平田 和彦
 英語購読 片岡 宏仁, 平田 和彦
 上級会話・リスニング Oliver Kinghorn
 LEVESQUE Pierre
 ドイツ語 吉田耕太郎
 中国語 王 標
 メディア論 吉本 陽一
 基礎情報科学 福森俊一郎, 野村 孝久
 体育実技 松原 慶子, 福田 厚治
 体育実技 山田なおみ, 田井 伸二
 講座所属外
 外科学 稲本 俊, 山城 大泰
 医事法制学 平野 哲郎
 法医学・法歯学 安原 正博
 小児科学 住本 真一
 皮膚科学 山崎 文和, 大江 秀一
 精神科学 上野 千穂
 兼担者
 眼科学 岸本 直子
 口腔インプラント科 江藤 隆徳, 井上 雅裕
 歯科審美学 末瀬 一彦
 臨床直前教育 小出 武, 松本 晃一
 永目 誠吾, 米谷 裕之
 辻 一起子, 辰巳 浩隆
 三ヶ山茂樹, 米田 護
 大西 明雄, 尾形 圭五
 樋口 恭子, 青木 秀哲
 城山 明宏
 以上 H. 21. 4. 1付
 大学院歯学研究科
 病理学 山根木康嗣, 川中 彩子
 岡村 友玄
 歯周病学 上田 実果, 田幡 元
 口腔外科学第二 山本 浩貴
 歯科矯正学 林 和男, 勝見 友晴
 橋本 和哉
 以上 H. 21. 4. 1付

欠損歯列補綴咬合学

伊藤 秀高

H. 21. 5. 1付

歯科技工士専門学校講師(非常勤)

長家 秀博, 松原 慶子, 山本 卓世
 佐ノ木幸夫, 藤田 淳一, 上野乃武彌
 川原 春幸, 武田 昭二, 大島 浩
 橋本 典也, 都賀谷紀宏, 諏訪 文彦
 竹村 明道, 戸田 伊紀, 上村 守
 東 義景, 岩井 康智, 隈部 俊二
 中塚美智子, 豊田 紘一, 藤原 眞一
 川合進二郎, 樫 則章, 西川 泰央
 池尾 隆, 田中 昭男, 福島 久典
 神原 正樹, 方 一如, 川添 堯彬
 田中 昌博, 更谷 啓治, 楠本 哲次
 江藤 隆徳, 佐藤 琢也, 井上 宏
 前田 照太, 吉峰 茂樹, 呉本 晃一
 小正 裕, 樋口 裕一, 郷上 勲
 松本 尚之, 飯田 拓二, 大東 道治
 嘉藤 幹夫, 竹安 正治, 山本 一世
 鈴木康一郎, 清水谷公成, 覚道 健治
 森田 章介, 小谷順一郎, 桑田 正博
 本多 正明, 山下 恒彦, 和田 弘毅
 足立 勝, 北條 博一, 宮川 千一
 高橋 恵美, 杉上 圭三, 西村 徹
 河村 龍三, 木本 吉昭, 加地 公夫
 西村 謙, 篠崎 照泰, 内木 雄一
 佐藤 繁男, 永井 利明, 菊田 茂
 小山 和美, 吐山 寛, 宮川 浩司
 齊藤 俊文, 堀内 賢, 武森 政文
 中辻 孝一, 木村 洋三, 西村 元彦
 明崎 納, 辻 正敏, 林 美己
 東 宗秀, 弓場 信三

以上 H. 21. 4. 1付

歯科衛生士専門学校講師(非常勤)

川合進二郎, 岡村 英幸, 檜枝 洋記
 藤原 眞一, 豊田 紘一, 樫 則章
 中前 純治, 石黒 義昭, 谷 康平
 山本 卓世, 佐ノ木幸夫, 藤田 淳一
 長家 秀博, 福田 厚治, 諏訪 文彦
 竹村 明道, 戸田 伊紀, 上村 守
 西川 泰央, 内橋 賢二, 池尾 隆
 田村 功, 吉川 美弘, 堂前 英資

岩井 康智, 隈部 俊二, 中塚美智子
 田中 昭男, 西川 哲成, 福島 久典
 山中 武志, 大浦 清, 篠原 光子
 戸田 雅裕, 神原 正樹, 川崎 弘二
 土居 貴士, 三宅 達郎, 佐久間泰司
 中村 亜紀, 今西 秀明, 福井 和枝
 入江 隆子, 福澤美智子, 中塚美智子
 覚道 健治, 山本 一世, 林 宏行
 辻 則正, 上田 雅俊, 緒方智壽子
 小正 裕, 柿本 和俊, 岡崎 定司
 森田 章介, 福田あおい, 大東 道治
 嘉藤 幹夫, 竹安 正治, 松本 尚之
 坂本恵美子, 東山 朋代, 濱本 愛子
 近森 信人, 小田見也子, 山下 政代
 隅田 好美, 上根 昌子, 清水谷公成
 秋山 広徳, 米谷 裕之, 北條 博一
 辻 一起子, 小谷順一郎, 川原 幹夫
 武田 昭二, 大島 浩, 糸田 昌隆
 方 一如, 宮本美千子, 藤林由利安
 高田橋美幸, 南部 智子, 馬場 忠彦
 奥田 恵司, 紺井 拡隆, 小出 武
 笠原 幸子, 森田婦美子, 張木 康代
 木村 葉子, 森 悦子, 江藤 隆徳
 井上 雅裕, 西田 百代, 平尾 一幸
 前田留美子, 井本 眞弓, 下川 泰子
 森川 香純, 橋本 由日, 岩本 尚子
 森本 鹿子, 堂前 尚親

以上 H. 21. 4. 1付

講師(非常勤)取り下げ

大学院歯学研究科

病理学

螺良 愛郎

欠損歯列補綴咬合学

土居 聖

以上 H. 21. 3. 31付

あしがき

—余談—

平成20年度の決算が報告された。消費収支において平成3年(1991年)以来、18年振りに「消費支出超過」から「消費収入超過」となった。いわゆる民間企業でいうところの「黒字決算」となったわけである。

平成3年といえば、本学の資産運用収入(利子収入)が最大となった象徴的な年である。今からは想像もできないが、1年間で37億円を超える利子収入があった。しかし、その年はすでにバブル崩壊が始まっていた年である。この日本経済のバブル崩壊と歩調を合わせるかのように、6年後の平成9年には本学の利子収入は10分の1にまで下がり、本学の「利子バブル」もその時点で崩壊していたのである。今から考えると、利子に依存した収入構造はすでに崩壊し、教育と診療を基本に据えた「実業本位」の収入に基づく支出構造への転換が必要とされていたのである。しかし、本学は時あたかも学舎移転、新病院建設という一大事業の時期に重なっており、また当時の日本経済の先行きを読むことは専門家でも困難であり(経済が回復すれば利率も上がるという期待もあった!?)、ことの重大さは陰に隠れたままとなっていた。

こうして、利子収入の崩壊による収入構造の変化(急激な減収)は紛れもない「現実」であったのに対し、支出構造はいつまでもバブル期の収入を前提とした「夢」から覚めないままであった。そのため、一度拡大した収支のギャップは改善されることなく、その負担分は毎年10億円規模で大学が「消費支出超過」という形で引き受け、年々、財務状況を悪化させていく結果となった。

問題点はきわめて明快である。現在の本学の収入に準じて支出を抑え、収支の均衡化を図るといふ、きわめて単純なことである。そして、支出を抑えるには、人件費と物件費を削減するしか他に方法はない。最大の問題は人件費であった。大学は、これまでも人件費の削減にあらゆる努力をしてきたが、収支のギャップはそうした努力のレベルを遥かに超えていた。

10億円規模の収支を改善するには、既得権益まで踏み込む抜本的な給与改革が必要とされた。つまり、利子収入に基づく収入構造から利子収入がなくなったの

であるから、人件費においても給与から利子部分を取り除かなければ、いつまでたっても現実の収入との均衡は不可能である。利子部分を維持しながら収支改善を図ろうとする試みはいずれも失敗し、高騰化した給与層と低昇給にあえぐ若年層という現代の縮図のような二極化が進み、給与体系をゆがめていた。財務の危機的な状況を前に、このバブルを解体しない限り、本学に前途は無いことは誰の目にも明らかであった。残された方法は、現実の収入に適合した合理的な給与体系を作り直すしかなかった。新給与表は、職制ごとに上限額を設定し、給与に入り込んだバブル期の利子部分を排除する方法を取っている。

この方法の適用を受け、実際に給与が下がった教職員は、当然のことであるが、大変不満を感じていると思われる。まじめに働き、何の失態も無いのに給与が下がるという現実を受け入れるのは、感情的に納得できるはずはありません。しかし、ものの論理から言えば、それまでの給与はすでに失われていた幻の利子収入に基づく「既得権益」であり、どこかの時点で区切りをつけなければならなかったのである。見方を変えれば、幻の収入であるにもかかわらず、大学はこれまでその負債部分を肩代わりして個々の「既得権益」を維持してきたともいえる。そして、ついに大学がその重荷に耐え切れなくなり、給与改革を断行せざるを得なくなったのである。これが偽らざる実情です。

さて、18年振りに「消費収入超過」となったわけですが、前回と今回ではその意味合いがまったく異なります。前回は、利子収入という、いわば親の遺産を前提としていましたが、今回は大学自らの改革により自立し、利子収入に依存せず(すでにありませんが)、「実業部分」だけで収支改善を実現できたわけのです。

教育と診療で収入を得て大学、病院を運営していくという、当たり前の姿に戻ったわけのです。ようやくスタートラインへの態勢が整い、これからが勝負です。

大阪歯科大学広報 第147号
発行日 平成19年6月30日
編集発行 広報委員会
〒573-1121 枚方市楠葉花園町8-1
電話 072-864-3111